
奇談「踏み女」

榊田珪赤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

奇談「踏み女」

【Nコード】

N1325V

【作者名】

榊田珪赤

【あらすじ】

現代にしかない敷居の話。敷居を踏んではいけません。皆様、くれぐれもご注意下さい。
自サイトより転載の話です。

ある鉄道の、ある駅の話だ。

あるＯＬが、通勤ラッシュの中、一人の髪の長い女を見た。

何時もＯＬは、途中で各駅停車から急行に乗り換える為に一度ホームに降りる。

そしてその駅のホーム、決まって四両面の、四番目の扉に、髪の長い女は居る。

ダイヤの関係で、何時も各駅停車が快速急行を待ち合わせする事になっていた。

その、待ち合わせをしている電車の、件の扉、その開いたままの扉の縁を、髪の長い女はただ黙って、淡々とヒールで踏んでいるのだ。最初に見た時には障害者かと思ったが、どうもそんな様子ではない。どちらかという、知性的な雰囲気かにじみ出ている、ほっそりとした美人だった。服装にも奇怪な点はない。

単なる癖だろうと断ずるには余り熱心にやっている、余計に訳がわからない。

しかし、ある日、髪の長い女が居ない朝があった。

今日は居ないのかと思っていると、そのまま来る事がなくなってしまった。

そして、女がなくなってから四日間続けて、同じ電車が同じ時間に人を轢いた。

何れの事故も、即死だったという。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1325v/>

奇談「踏み女」

2011年10月9日11時47分発行